

2027年3月期 第1四半期
決算補足資料
(市場環境)



サンケン電気株式会社

2026年8月13日

2027年3月期 第1四半期 業績

(億円)	2026年3月期					2027年3月期	前期1Q比		前期4Q比		業績予想			
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	金額	増減率	金額	増減率	上期	通期		
売上高	222	188	181	210	802	187	-36	-16.0%	-23	-11.2%	393	865		
サンケンコア	210	185	181	210	786	187	-23	-11.0%	-23	-11.1%	393	865		
その他	12	3	0	0	16	—	—	—	—	—	—	—		
営業利益	-4	-5	-8	-30	-47	-21	-17	—	+9	—	-24	14		
サンケンコア	-3	-4	-8	-30	-45	-21	-18	—	+9	—	-24	14		
連結調整他	-1	-1	0	0	-2	—	—	—	—	—	—	—		
持分法投資/LPS運用損益	-1	9	-10	-27	-30	6	+7	—	+33	—	—	—		
経常利益	-9	1	-22	-58	-88	-18	-8	—	+40	—	-29	1		
特別損益	3	-3	4	-4	0	2	-1	—	+5	—	—	—		
当期純利益	-9	-5	-21	-63	-98	-19	-10	—	+44	—	-29	10		
一株当たり当期純利益 (円)					-472.88	-93.34					-139.96	48.26		
為替レート 累計平均	144.62	146.04	148.73	150.69									155.00	
(Yen/USD) 3か月平均	144.62	147.47	154.10	156.97										

サンケン コア	<1Q 前期1Q比(億円)>		
	売上	白物家電市場を中心とした減収	-23(うち為替影響 +11)
	営業利益	売上減および材料高騰影響	-10(うち為替影響 +5.7)、生産調整影響 -8 (前1Qは生産調整なし)
連結	<1Q 前期4Q比(億円)>		
	営業利益	4Q比で生産調整影響が縮小	+9
	<1Q 営業外損益以下 主な計上額(億円)>		
連結	営業外損益	・持分法投資/LPS運用損益	: + 6 (アレグロ当期純利益の持分損失-3、LPS運用益+9)
		・支払利息	: - 3
	特別利益	・持分変動利益	: + 7 (アレグロ株式報酬計上に伴う持分変動影響)
	特別損失	・特別退職金	: - 6 (山形サンケン)
	法人税等		: - 3

2027年3月期 対ドル想定為替影響(1円変動/年): 売上高 約3億円 営業利益 約1.5億円 (円安でプラス・円高でマイナス)

市場環境

～マクロの情勢～

- 金属建値、素材・エネルギー価格は高止まりも、部材価格の上昇傾向は続く
- 中国経済の成長鈍化が投資・消費活動に影響
国産化政策を背景とした現地調達志向が継続
- 新興国経済に減速感が見られる中、インドは堅調を維持
- IEAは、データセンター・空調・BEV等の増加により電力需要が加速すると予想

自動車市場

- CY26 OEM生産台数予測 92M台
中国は停滞も、グローバルではICE/HEV向けが引き続き堅調
- BEV市場は世界的な調整局面が続くも、欧州では回復傾向
- [空調] 電動コンプレッサー向けIPMが、国内BEV/PHEV新モデルに搭載され、純増見込み
- [パワトレ] EVトラクションモータ用パワーモジュールを複数Tier1へ拡販
- [シャシー] 運転支援から自動運転への機能拡充に向け、ソレノイド・ポンプ駆動制御の引き合いが増加

白物家電市場

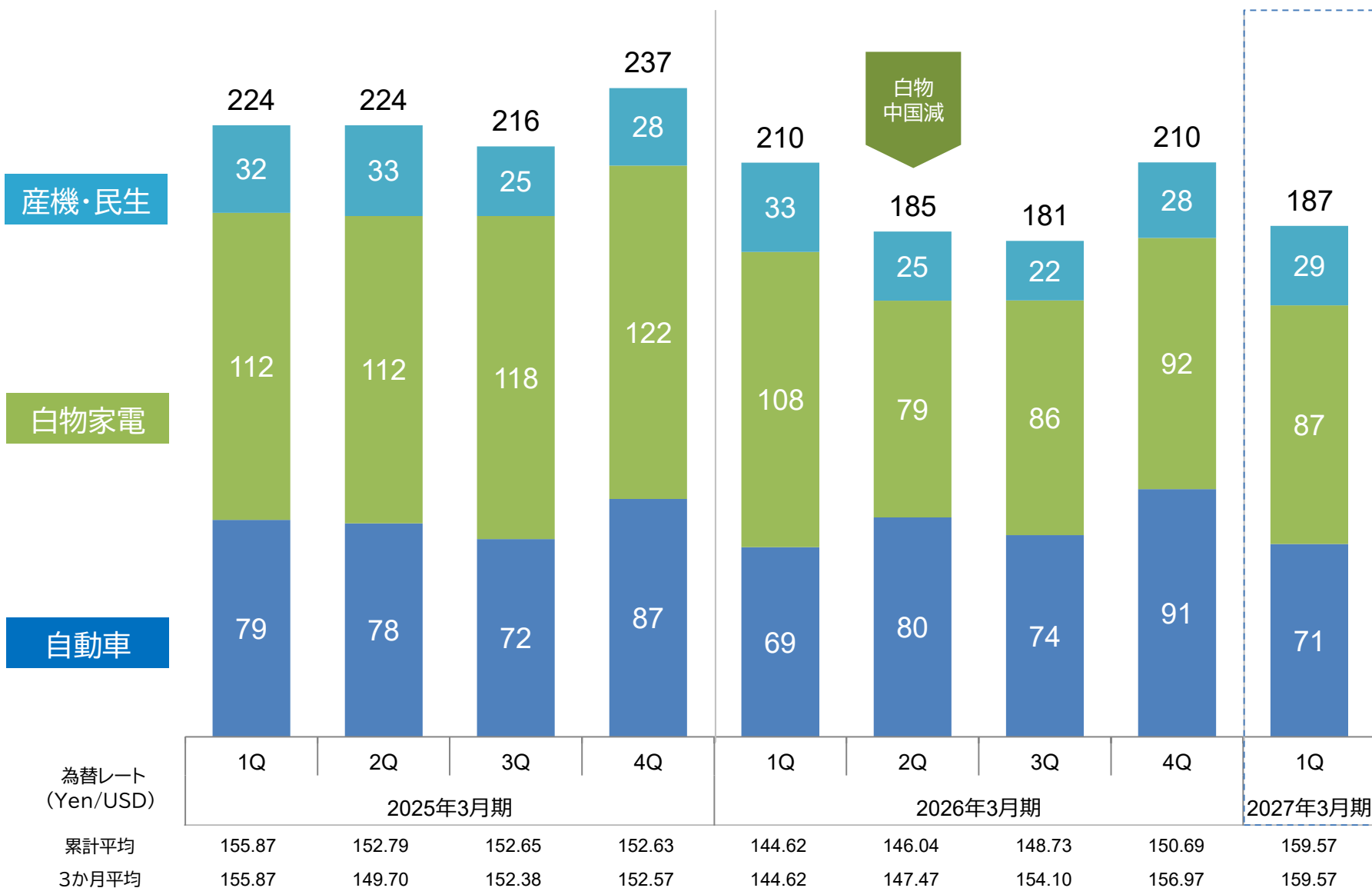
- 韓国顧客のグローバル需要は前年比で総じて安定しており、CY26生産は、エアコン、洗濯機、冷蔵庫とも堅調の見込み
- 主要顧客のデザイントレンドは、小型・面実装・放熱フィンレス化にあり、GaN搭載の次世代IPM/電源ICを提案開始
- インド・欧米顧客へのFAEサポート強化によって、IPM/電源ICの受注獲得に繋がっており、さらにデザインインが進む見通し

産機/民生市場

- 汎用ポンプ用1200V高耐圧ケースモジュールが、海外大手顧客向けに下期から出荷開始
- 22nmMCU搭載デジタル電源ICの新製品が、韓国OLED-TV向けに置換完了
- データセンターのチラー冷却ポンプ向けに、EVトラクションモータ用パワーモジュールを応用展開し、具体的な実装設計に着手
- ECファン・ポンプ向けに高耐圧IPMを拡販

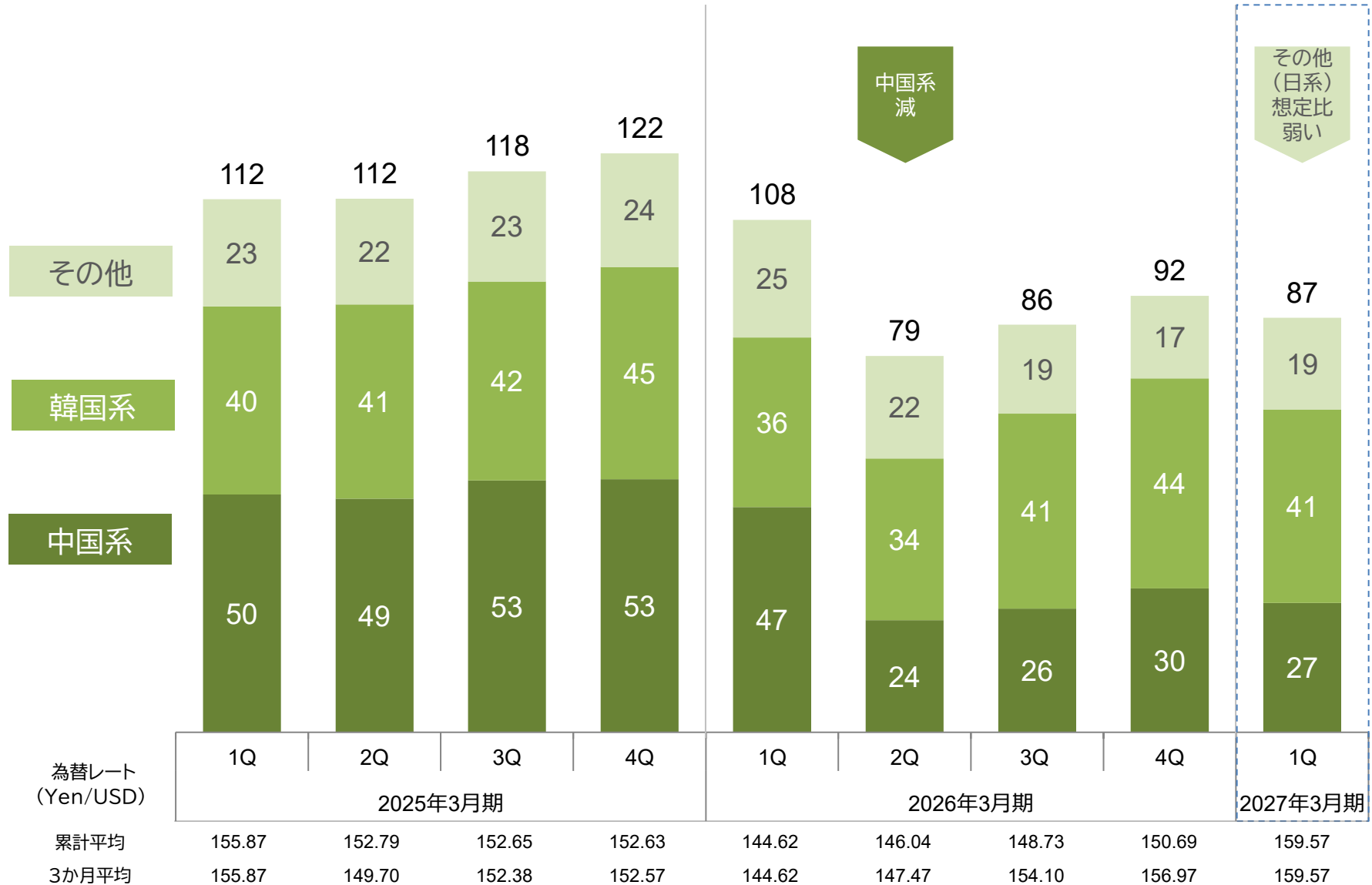
(億円)

市場別売上高 四半期推移



白物家電市場 > 顧客グループ別売上高

(億円)



財務状況

健全な自己資本の水準を維持

	2025年3月末	2026年3月末	2026年6月末
自己資本比率	56.9%	50.1%	51.7%
D/Eレシオ	0.43x	0.67x	0.68x

IPMの用途・技術展開

(技術の応用展開については、『[サンケン技報](#)』を参照ください)

Industrial

空調・液冷システム

- ・コンプレッサー
- ・冷却ポンプ
- ・ファンモータ
- ☆800V給電にも対応

業務用空調 / ECファン / ポンプ



SAM2
1200V **MP**
5~15A



SAM2
650V **MP**
50A

AIデータセンター800V給電対応

Under Dev



SAM2
1200V
~50A

Under Dev



SAM2
1200V
50A

xEV補機

電動コンプレッサー バッテリー 冷却ポンプ

☆800V BEVにも対応

400V BEV / PHEVに対応



SAM2 650V
30~50A **MP**

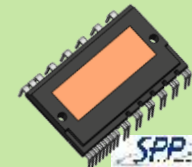


SAM4 700V
30A **MP**
60A **Under Dev**

800V BEV / PHEVに対応



SAM2 1200V
15A **MP**
5~10A **Under Dev**



SAM2D 1200V
25~40A **Under Dev**

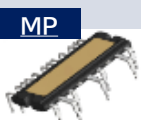
Appliance

コンプレッサー

ダイレクト ドライブモータ

ファンモータ

Cuワイヤー化推進



MP
SCM
600V
10~30A



MP
SIM2
600V
15~20A



MP
SX
600V
2A



MP
SIM1
600V
2~10A

コスト改善



Under Dev
SCMx
600V
15~30A



Under Dev
SIM1B
600V
2~10A

小型/低損失→放熱フィンレス



Under Dev
SIM2
600V
~30A



Under Dev
SXx
600V
~10A



Under Dev
SIMx
600V
~20A

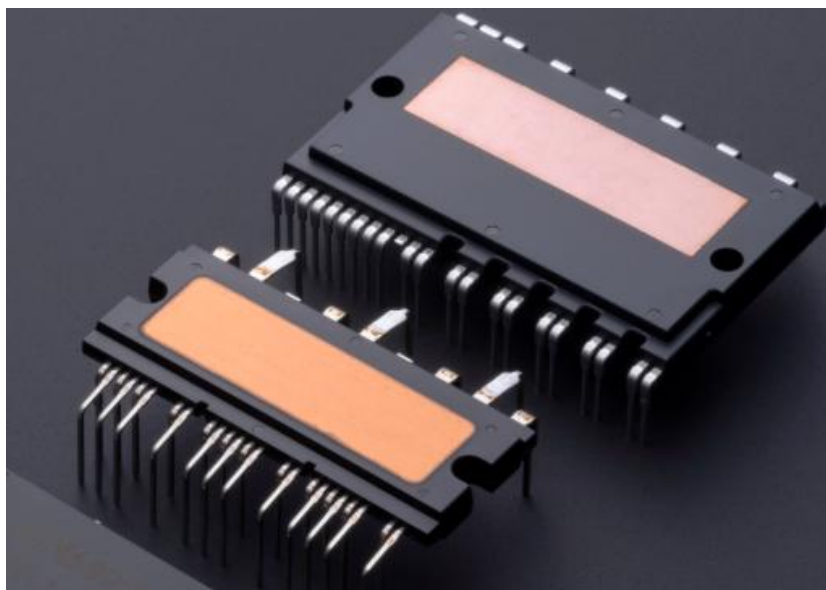
GaN
面実装化

マーケットポジション

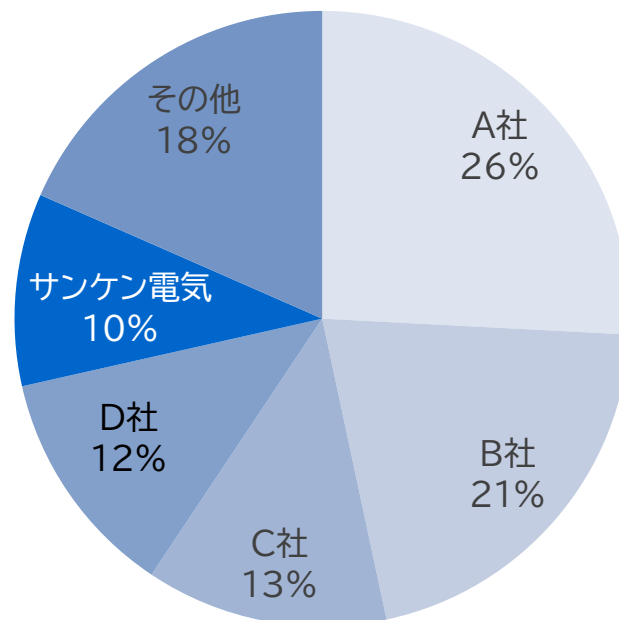
パワー半導体市場でグローバルの地位を確立

IPM(インテリジェント・パワーモジュール)

世界 **5** 位
国内 **3** 位



IPMマーケットシェア



富士経済「2026年版 次世代パワーデバイス関連市場の現状と将来展望」より

将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている当社に関する業績見通し、計画、方針、戦略、目標、予定、判断、認識などのうち既に確定した事実でない記述は、将来に関する記述です。これら将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する前提を基礎として作成したものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいます。従って、実際の業績は、これらのリスク、不確実性、その他の要因により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。また、当社は、適用法令の要件に服する場合を除き、業績見通しの見直しを含め、将来に関する記述を更新あるいは修正して公表する義務を負うものではありません。

当社が属するエレクトロニクス業界は、常に急激な変化に晒されていますが、当社の業績や財産に重大な影響を与えるリスク、不確実性、その他の要因には、(1)経済環境、市場・需給動向、競争状態、(2)為替レートの変動、(3)技術進化への追従の成否、(4)原材料の高騰あるいは調達難、(5)各国・地域における法制度の変更あるいは社会情勢の急変、(6)偶発事象の発生などがありますが、これらに限定されるものではありません。